



星川だより

秋



熊谷空襲を忘れない市民の会 会報

熊谷女子高校生と行く 「熊谷空襲戦跡巡り」 大久保由美子



戦災者慰霊の女神像を囲んで説明を受ける生徒たち

大型で猛烈な台風14号が南大東島から九州に接近し、警報級の大雨や風に警戒が呼びかけられていた。そんな9月17日、予定していた熊谷女子高校生との戦跡巡りはどうなる事かと心配しましたが、幸い熊谷は雨も降らず、日差しも強くなり、絶好の街歩き日和となりました。

集合予定の13時半頃、熊谷市立熊谷図書館3階に続々と集まって来る在校生17名、卒業生（最後の空襲・熊谷）でインタビューをした生徒達）3名、先生3名、当会会員5名を含む大人7名、朝日・埼玉新聞の記者2名の総勢32名、正直こんなに集まってくたさる

とは思っていません、戦跡巡りは関心が高いのだと改めて思った次第です。

図書館3階では熊谷空襲のジオラマを前に、学芸員の大井教寛さんが、熊谷空襲を太平洋戦争、そして、第2次世界大戦という大きな視点から捉える事の大切さと、資料をすぐに信じるのではなく、必ず、検証することの必要性などを最初に高校生に伝えてくれました。親でも、先生でもない大人から、こんな話を聞くことが出来たことを大切に心に留めていたかったです。その後、大井さんからは熊谷空襲のあらましを説明していただきました。アメリカが日本の町を攻撃するため、に研究し作り上げた焼夷弾がどういった爆弾だったのかの説明には、高校生も驚いたように聞いていました。

一通りのレクチャーが終わり、いよいよ3班に分かれての戦跡巡りです。最初に向かったのは熊女です。当時の正門で、今は「北門」として移されている門柱と、「鈴懸の木」が戦争の傷跡を残している事を知らない生徒もいるという事です。空襲時のエピソードを話して、しっかり目に焼き付けてもらいました。

その後、中央公園の「平和の

鐘」と「戦災げやき」、「中家堂の石灯籠」、高城神社横を通り、戦災を免れた一角の「聖パウロ教会」、「熊谷寺」、その前後には夏目漱石の坊ちゃんモデルになった弘中先生が住んでいた明石医院も確認しました。それから八木橋の中の中山道を通り、陸橋を渡り、「厄除け平和地蔵堂」（ご近所で管理、舌代の字が読めなくなっていること）も確認、伝え続ける重要性を感じてもらいたいと思う、星溪園を通りぬけ、「石上寺」へ。

「石上寺」ではご住職がまず「戦災げやき」の説明をしてくださり、本堂では祭壇手前に本堂の建て替え時に出土した「鬼瓦」が、中央にはご本尊である秘仏の「空海像」が置かれました。空襲でお顔の一部が焼けた「空海像」は、先代のご住職から「空襲の惨禍を伝えるも



石上寺ご住職のお話を真剣に聴く生徒たち

のとして修理せず残すように」と、言われているとのこと。その他、忍城城主から賜ったという美術品なども多数あり、文化財を守るためにも戦争はあってはならないと改めて感じてもらったことと思います。

その後、星川に行き、北村西望作「戦災者慰霊の女神像」と、最後に「身代わり地蔵」を見学し、戦跡巡りの予定が全て終了しました。

3時間ほどの予定で今回戦跡巡りを企画しましたが、ちょっと、駆け足だったかな、もう少し、時間的に余裕があった方がよかったです。ただ、熊谷生色々あります。ただ、熊谷生皆さんが、事前にきちんと学習して臨まれ、事後も感想文を書かれるなど、とても真摯にこの戦跡巡りに関わってくださったことは嬉しいことです。今後は他の学校にも呼びかけ、高校生と巡る熊谷空襲の戦跡として定着していけたらと切に願っています。





お話しいただいた空襲体験者の皆さんと
1階ホールに展示した「熊谷空襲戦跡・ネル」

若い人々へのメッセージ
「七十七年前に熊谷で何が起
こったのか」
空襲体験者を囲んで
米田主美

8月27日、酷暑のさ中であ
ったが、3人の熊谷空襲体験
者（大久保利次さん、高城三郎さん、
森田隆夫さん）にお出でいただき、
それぞれの体験を語っていた
だいた。3人は当会が1昨年
出版した「最後の空襲 熊谷」
の中で高校生にインタビュ
ーを受けていただいた方々であ
る。

—空襲始まる—

当時本町に住んでいた大久
保さんは、夜中、警戒警報が鳴
り、続いて空襲警報になったの

でお風呂の水をかぶり大原墓
地の方面へ逃げた。明るくなり
帰ると家は焼失していた。久下
にお住まいの森田さんは、5年
生、警報に飛び起きた時には頭
上に飛行機がきていた。近所は
大分燃えてしまった。自宅は燃
えなかったがまゆ小屋が焼失
した。高城さんは行田にいたが、
住まいは熊谷に近い忍町、熊谷
の方を見ると真つ赤な炎で被
われていた。急いで家族と表畑
にタンスを運び出した。

—当時の学校—

大久保さんは、国民学校へ行
つても勉強はなく、朝礼が終わ
ると飛行機のリベット打ちを
した。街角で女性が千人針をみ
んなに頼んでいたの自分も
針を入れた。森田さんは、2時
間くらいで帰り、出征兵士の家
に行き、蚕用の桑の葉を取り皮
を剥いた。桑の皮は兵士の服に
なつたらしい。お米は食べられ
ないのでさつまいもの蔓を小
さく切ったり、虫を佃煮にし
たり、かぼちやを食べた。高城さ
んは、教科書が公民教科書にな
り、日本の歴史は「国史」と言
い、天照大神から歴代天皇の名
前を暗唱した。不幸なことに今
でも全部言えますよ（笑）。元日
の四方拝・2月の紀元節・4月
の天長節・11月の明治節には
学校へ行き、講堂でご真影に拝
礼、校長先生が恭しく教育勅語

を読んだ。

—空襲が終わって—

大久保さんは、大宮駅へ出動
したがすぐに帰るよう言われ、
途中上尾駅で降ろされると
天皇陛下の声が流れ、敗戦と知
つたが、「負けるわけにいか
ない」とみんなで言い合った。そ
の後少しして、どこにも進駐軍
の姿があった。車両に「死体」
という表示を見ることがあり
恐ろしかった。森田さんは、敗
戦から数年、亡くなった二百六
十六人の方々の魂を鎮めよう
と熊谷中央ライオンズクラブ
で中央公園に「平和の鐘」を寄
贈した。ドイツのカリオンと言
つて4つの鐘が鳴る（現在は故
障のため1つのみ）。今でも毎
年8月平和のつどいが続けら
れていて嬉しい。高城さんは、
焼けた熊中の恩師の家へ友人
と片付けに行った。

—加害者でもあった日本人—

日本は空襲に遭って被害者
だという意識が強いが、日本も
加害者だということを忘れな
いでほしい。シンガポールを占
領し昭南市（しょうなんし。昭
和の南）と改名、日本人が市長
になった。神社をつくって現地
人に参拝させた加害者でもあ
つたのだ。

—会場から—

「1階のパネル展を見て、ウク
ライナと同じだと思った。子ど

もたちにもぜひ見てほしい」な
ど、様々な感想が述べられた。

今回、イベントの申し込みが
多かつたため、急遽、ズームで
配信したり、1階でも2階の様
子が映像で見られるようにし
たが、音声がうまく聞こえない
などの不手際もありご迷惑を
おかけした。感染症予防のため、
2階の会場は定員の半数に絞
られてしまったための対応だ
つたが、課題も残った。

新安保法によって米韓と共
に日本の自衛隊も海外へ出る
ようになった。先週は北朝鮮の
ミサイルが日本の上空を飛び、
Jアラートが鳴ったためにテ
レビの番組中、字幕が往来した。
七十七年前は決して昔のこと
ではない。空襲を体験された3

人の証言者は、それぞれ力強く
「戦争はやってはダメなんだ」
と会場に訴えかけた。私たちは
この言葉をしっかりと受け止め
若い人たちに繋いでいく使命
を改めて感じた次第だ。



～ カンパのお願い ～

熊谷空襲を忘れない市民の会では、広く活動費用を
募るため口座を開設しました。ご協力のほどよろしく
お願いします。
なお、会計報告はこの紙面により行います。

ゆうちょ銀行

口座記号・記号:00100-7-265321

加入者名:熊谷空襲を忘れない市民の会
口座名称カナ:クマガヤクウシュウワラスレナイ
シミンノカイ

他行からの振り込みの場合は

店名(店番):0一九店(019)
預金種目:当座
口座番号:0265321

会計報告(2022/6/12~10/17)

収入:35,900円
支出:86,267円
残高:87,493円

編集委員 吉田庄一、小川美穂子、米田主美
連絡先 吉田庄一(090-4957-9181)
メール imajn241@gmail.com
HP http://www.peace-kumagaya.org/

